

☆発掘調査でわかったこと

今回の調査で古墳時代初頭（約1800年前）に埋没した幅2m、深さ1mの大きな溝が見つかりました。弧状に延びることから集落の周りにめぐらされた溝と考えられ、このような溝を環濠（かんごう）とよんでいます。環濠は外敵から集落を守るためや区画・排水などの目的で掘られたもので、弥生時代に多く見られます。林垣内遺跡の環濠からも弥生土器の出土があり、古墳時代初頭の土器は環濠がある程度埋まった後に、大量に捨てられていました。このことから林垣内遺跡の環濠は弥生時代後期に掘られ、古墳時代の始まりとともにその役目を終えたものと思われる。



環濠から出土した壺（左手前）、高杯（奥）、鉢（右手前）

1. 遺跡名	林垣内遺跡
2. 所在地	三重県津市野田
3. 原因事業名	平成22年度広域河川改修事業
4. 調査期間	平成22年9月22日（水）～12月9日（木）
5. 調査面積	650㎡

# はやしがいといせき 林垣内遺跡 現地説明会資料

平成22年12月5日  
三重県埋蔵文化財センター

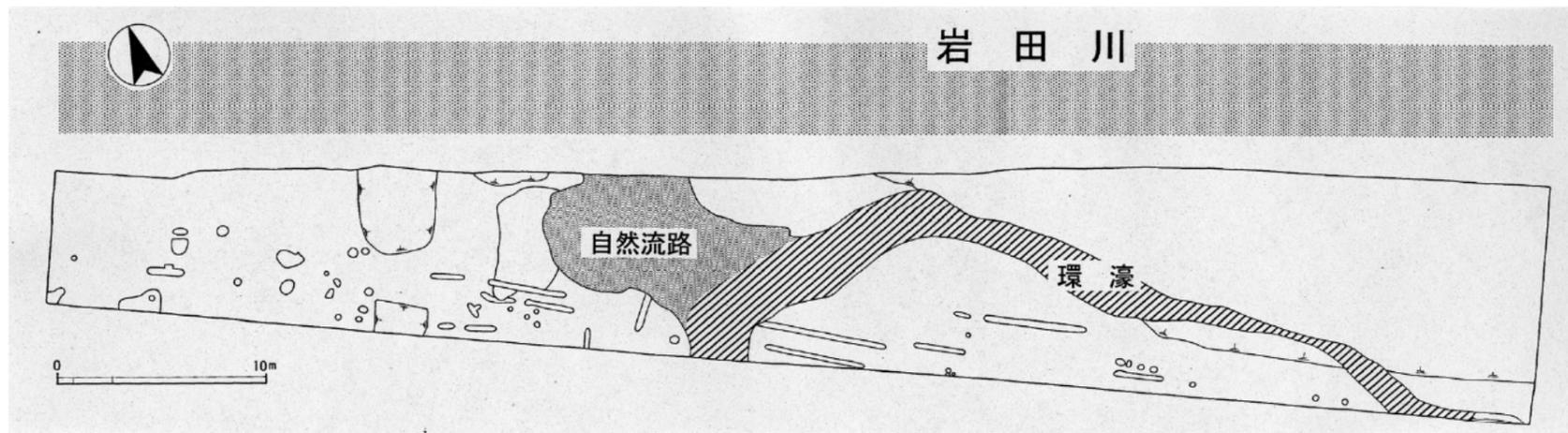
☆はじめに

林垣内遺跡は津市野田地内の半田丘陵北西端の裾にある遺跡です。大部分が畑で一部、大木がみられる林や竹林です。林垣内遺跡の北側には岩田川が流れ、今回の発掘調査はその岩田川の護岸工事に伴って行われました。長さが約70m、幅が約10mの細長い範囲を調査し、調査面積は650㎡です。

野田地区周辺には多くの遺跡がみられます。例えば弥生時代の大規模な集落跡が見つかった納所遺跡は林垣内遺跡から北東方向約2kmの平野にあります。その他には、中勢バイパス建設に伴って発掘調査が行われた替田遺跡・位田遺跡からも弥生土器が出土しています。今回の調査で林垣内遺跡も弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡であることがわかりました。また、林垣内遺跡のある野田地区の竹林からは江戸時代に銅鐸が見つかったと伝えられ、現在は高田本山専修寺に保管されています。



国土地理院発行 1/25,000 地形図「津西部」より



遺構配置図 (1 : 300)



環濠から土器が出土する様子



調査区全景



環濠を掘っています



環濠の中の土器を取り上げています



密集して出土する土器



林垣内遺跡からは弥生土器・土師器の壺・高杯・甕や須恵器の高杯・はそう(写真手前)・石鏃などが出土しました。はそうは壺のような形をしています。丸い穴の注ぎ口があり、お酒などを入れたものと思われます。

